

令和 6 年度（2024 年度）施策評価シート

1 評価シートの位置づけ

東海市スポーツ推進計画（令和 4 年度から令和 10 年度）の施策に基づき実施した事業や次年度以降の方向性等について、東海市スポーツ推進会議において確認を行い、当該年度の施策を評価したもの。

2 スポーツ推進計画の基本的な考え方、計画目標・テーマ

自ら身体を動かして行う「する」スポーツだけでなく、プロスポーツを始めとした各種競技大会を観戦する「みる」スポーツ、監督・指導者や大会のスタッフ・ボランティア、また、ファンとして関わる「ささえる」スポーツの場面での取組を進め、スポーツに関わる人を増やし、市民の心身の健康を高めるとともに、スポーツを通して人と人との交流を深め、地域の一体感や活力あるまちづくりにつなげていくことで、東海市都市宣言の「生きがいがあり健康なまち東海市」の実現を目指す。

【計画目標】 スポーツに関わる人を増やし、健康で活力あるまちづくりに貢献する。

【テーマ】 スポーツを「しよう！」「観よう！」「支えよう（応援しよう）！」

～ スポーツのチカラで、一体感と活力を！ ～

3 指標の推移

基本 施策	成果指標	基準値 R1 年度	現状値 R5 年度	現状値 R6 年度	目標値 R10 年度
I	スポーツを実践している人の割合	51.4%	52.2%	50.7%	58.0%
II	全国大会等出場件数	205 件	264 件	269 件	230 件
III	市外からのスポーツイベント参加者数	2,169 人	2,605 人	3,078 人	3,300 人
IV	スポーツをしやすい環境が整っていると思う人の割合	65.3%	63.7%	53.9%	72.0%

基本施策 I

スポーツライフの推進

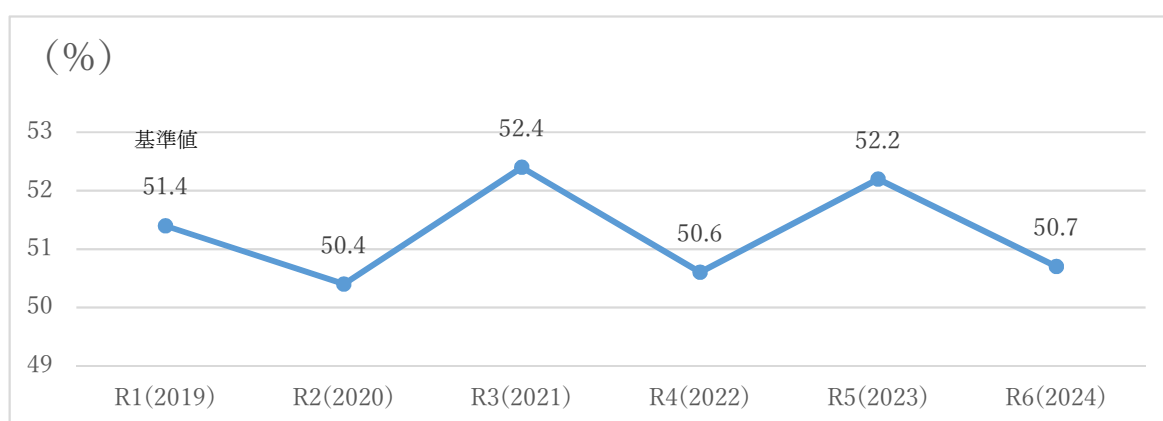


誰もが体力や年齢、障がいの有無等に関わらず、気軽にスポーツに親しむことができるよう、各種スポーツ事業の充実を図るとともに、身近な地域での活動も拡充する。また、各種スポーツ大会の開催支援やスポーツを支える指導者を増やすなど、市民の生涯にわたるスポーツ活動を推進する。

① 指標の推移

成果指標：スポーツを実践している人の割合

目標値：58.0%



△

対基準値：0.7 ポイント減／目標値達成率：▲10.6%

基準値に対して、改善○、横ばい△、悪化×

② 主な取組

1-1 生涯スポーツ活動の充実

取組の方向性	参加しやすいスポーツ機会の充実 子どもたちのスポーツ機会の充実 働く世代のスポーツ機会の充実 スポーツ関係団体との連携
主な事業	体力テスト&スポーツ体験会、夕涼みモルック（市・スポ進）、地域スポーツ振興事業（コミ・スポ進）、みんなでウォーキング（市・スポ進・民間）、ふれあいスポーツ大会（市・身障者福祉協議会）、シニア健康フェスティバル（市・クラブ）、スポーツ出前授業（小学校・企業）、各種スポーツ教室・体験会、スポーツフェスティバルGO!GO!とうかい（クラブ）、スポーツ体験会、障がい者スポーツボランティア活動、学校部活動支援ボランティア

	ア（大学）、卓球・カローリング・吹き矢部活動（身障者福祉協議会）、水泳教室開催事業（市）
課題・次年度の方向性	時間が無い人が気軽に取り組めるスポーツの展開、家族で取り組めるイベントの開催する必要がある。 また、普段運動をしない人のスポーツ機会を増やすためのイベント内容を考える必要がある。

1-2 競技スポーツ活動の充実

取組の方向性	競技活動のできる環境の確保 スポーツ指導者の育成及び派遣制度の確立
主な事業	東海市ジュニアスポーツフェスティバル（市・クラブ・小中学校）、各種市民大会（クラブ）、スポーツ指導者認定制度、ジュニアクラブ活動（クラブ・大学）、スポーツ指導者派遣（大学）、学校部活動地域移行推進補助事業
課題・次年度の方向性	中学校部活動の地域展開が開始となり、地域でのスポーツ活動が拡充されるよう、指導者を確保及び資質の向上をするためのスポーツ指導者バンク制度の拡充とその運用の改善を行う必要がある。

③ 施策の評価

施策の成果動向は、「横ばい」と評価する。

「スポーツを実践している人の割合」は、基準値から 0.7 ポイント減少している。年齢別では、10代は高いが、30代がやや低い。学区別では、三ツ池が高く、その他では差異はない。

子育て世代や働く世代が参加できるようなスポーツ機会の提供が、不足していると考ええる。

次年度は、家族で気軽に参加できるイベントを開催するなど、普段運動していない人のスポーツ機会を増やすとともに、部活動の地域展開が進む中、地域でのスポーツ活動が拡充されるよう、設置された指導者バンク制度の周知とよりよい運用の方法について検討する必要がある。

成果動向を「順調」「横ばい」「順調でない」のいずれかで評価

基本施策Ⅱ

アスリート活動の推進



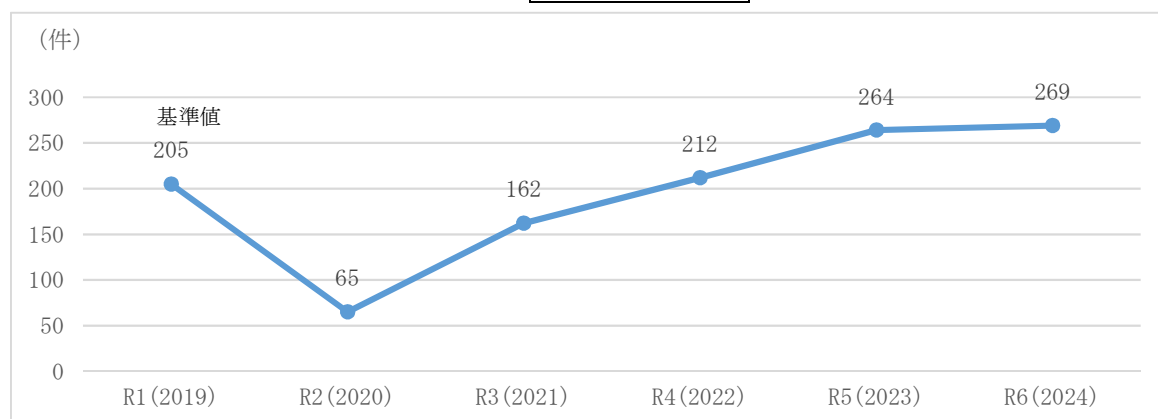
ふるさと大使である企業スポーツチーム等と連携して試合観戦やスポーツ教室等の機会を提供し、アスリートの発掘・育成に努める。

また、全国大会等に出場する選手の激励事業や優秀な成績を収めた選手や団体を表彰するなど、アスリート活動を支援する。

① 指標の推移

成果指標：全国大会等出場件数

目標値：230 件



○

対基準値：64 件増／目標値達成率：256.0%

基準値に対して、改善○、横ばい△、悪化×

② 主な取組

2-1 アスリートの発掘・育成

取組の方向性	企業スポーツチーム等との連携 目標となる大会等の開催 一貫した活動体制の整備
主な事業	愛知駅伝大会派遣事業（市・クラブ・学校・企業） ふるさと大使等スポーツ連携交流事業（市・クラブ） 山崎武司杯、インドアソフトテニス大会（クラブ） 大同フェニックスカップ（企業）、大同フェニックスユースチーム発足（企業）
課題・次年度の方向性	引き続きふるさと大使等地元企業スポーツチームなどと連携した試合観戦やスポーツ教室等を開催する。

2-2 アスリートの支援

取組の方向性	アスリート活動の支援
主な事業	全国大会出場者激励事業（市）、スポーツ功労者表彰（クラブ）、パリ 2024 オリンピック出場者応援事業
課題・次年度の方向性	引き続き全国大会出場に伴う激励制度の周知を図り、身近なアスリートの活躍を市民に伝え、応援するとともに、市民のスポーツ機運を高める。

③ 施策の評価

施策の成果動向は、「順調」と評価する。

「全国大会等出場件数」は、基準値から 64 件増加しており、全国大会出場者に対する激励制度が定着してきたことやオリンピック出場選手の応援事業などの実施を通して、アスリートを支援する環境整備が進んでいることが要因と考える。

引き続き、ふるさと大使等地元企業スポーツチームなどと連携した試合観戦やスポーツ教室を開催するとともに、目標となる大会等の開催や、ジュニアスクールの充実を図るなど、アスリートの発掘・育成に努めていく。

成果動向を「順調」「横ばい」「順調でない」のいずれかで評価

基本施策Ⅲ

スポーツによる交流の推進



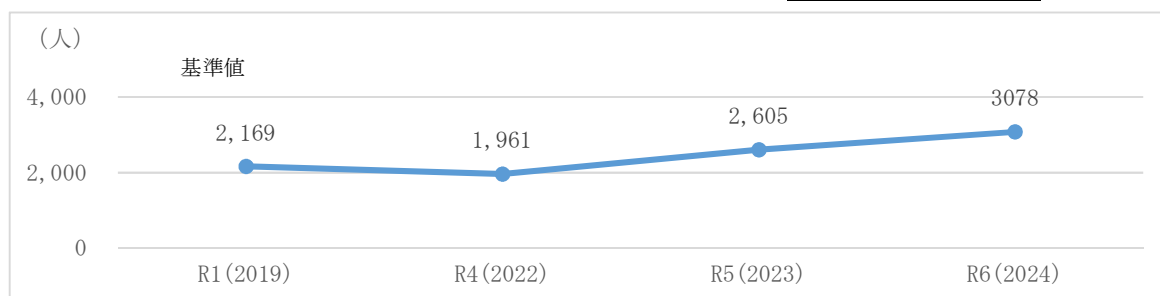
ハーフマラソン等の魅力あるスポーツイベントの開催や姉妹都市等とのスポーツ交流を推進し、広域的な交流人口の拡大を目指します。

また、トップチームやアスリートの試合・合宿等を誘致し、スポーツ交流によるまちのにぎわいづくりを推進します。

① 指標の推移

成果指標：市外からのスポーツイベント参加者数

目標値：3,300人



○

対基準値：909人増／目標値達成率：80.4%

基準値に対して、改善○、横ばい△、悪化×

② 主な取組

3-1 広域的なスポーツ交流活動の充実

取組の方向性	大規模スポーツイベントの開催 姉妹都市等とのスポーツ交流の推進 トップチーム等の試合や合宿の誘致
主な事業	東海ハーフマラソン（市・企業・大学・クラブ・コミ・小中学校、スポ進）、姉妹都市スポーツ交流事業（市・クラブ）、身障者スポーツ大会、グラウンドゴルフ大会（県・身障者福祉協議会）、アジア競技大会開催支援事業（市）、大相撲東海場所観戦事業（市）、日本ハンドボールのリーグH参入に伴うホームタウン開催（企業・指定管理）
課題・次年度の方性	主要事業である東海ハーフマラソンを軸に、各種団体との連携の強化と、これまでの反省点の改善を踏まえて、より魅力ある事業展開をする必要がある。

③ 施策の評価

施策の成果動向は、「順調」と評価する。

「市外からのスポーツイベント参加者数」は、基準値から 909 人増加しており、東海ハーフマラソンにおいて、市制 55 周年記念事業として実施する中、募集定員を増やしたことにより参加者が増加したものとする。

次年度も課題を改善し、より魅力ある大会とすることで、更なるスポーツ振興と交流人口の拡大を図る。

また、来るアジア競技大会受け入れに向け、市全体の機運を高め、市民一体となった取組について検討をし、一層のスポーツ振興を図るとともに、更なるまちの活性化につなげる。

成果動向を「順調」「横ばい」「順調でない」のいずれかで評価

基本施策Ⅳ

スポーツに親しむ場の整備

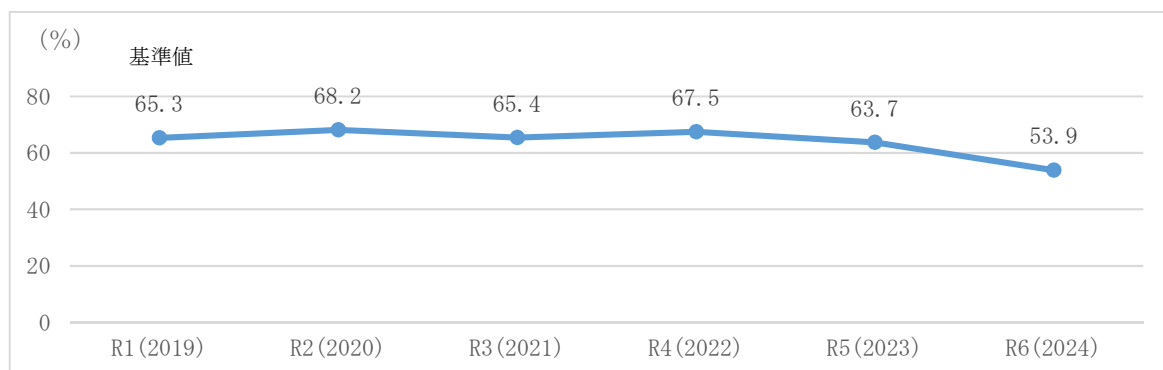


利用者が安全に安心してスポーツに親しむことができるよう、施設の長寿命化を図るなど、適切な管理運営に努める。

また、市民に身近な公園や緑道等を活用し、スポーツ交流拠点機能が果たせるように整備を進めるとともに、スポーツ施設の在り方についても検討する。

① 指標の推移

成果指標：スポーツをしやすい環境が整っていると思う人の割合 目標値：72.0%



×

対基準値：11.4 ポイント減／目標値達成率：▲170.1%

基準値に対して、改善○、横ばい△、悪化×

② 主な取組

4-1 スポーツ施設の整備・運営

取組の方向性	スポーツ施設の在り方の検討 スポーツ施設の整備 スポーツ施設の管理運営
主な事業	市民体育館管理運営、維持補修、サブアリーナ空調機整備、床等改修、トレーニング室整備、温水プール管理運営、屋外運動施設管理運営、加木屋テニスコート人工芝張替、市内スポーツ施設活用調査（市）、市民体育館エレベーター改修、トイレ様式化整備事業（市）
課題・次年度の方性	アジア競技大会カバディ種目の開催に伴い、市民体育館の改修に着手する必要がある。 また、市内スポーツ施設の活用調査の結果を踏まえた施設の整備を進めるとともに、時代に即したスポーツ施設の在り方を検討する必要がある。

4-2 身近なスポーツ環境の整備

取組の方向性	公園や緑道等の整備・活用 学校体育施設の活用 大学や企業、民間スポーツ施設との連携
主な事業	地域・生涯スポーツ推進活動事業、学校体育施設スポーツ開放事業(市)、都市公園でのスポーツ用具の貸出(市・指定管理)、企業スポーツ施設の地域開放(企業)
課題・次年度の方向性	小学校の課外活動(部活動)の廃止や中学校部活動の地域展開に伴い、子どもたちのスポーツ機会の確保につながる学校体育施設の活用とその利用方法等を検討する必要がある。

③ 施策の評価

施策の成果動向は、「順調でない」と評価する。

「スポーツをしやすい環境が整っていると思う人の割合」は、基準値から 11.4 ポイント減少している。年齢別では、年齢を重ねるほど低い傾向がある。地区別での差異は見られない。

各スポーツ施設の維持・管理のみならず、身近な公園整備や学校のスポーツ開放の充実等の需要が高まっているものとする。

次年度は、アジア競技大会開催受け入れに向け、市民体育館のトイレ改修などの整備工事を進め、誰もが安全に安心して利用できるよう準備を進めていく。

また、市内スポーツ施設活用調査の結果を踏まえ、旧青少年センター跡地において、市民の需要が高いバスケットボールを屋外で気軽に楽しめるよう、新たなスポーツ施設の整備を進め、スポーツをしやすい環境整備に努める。

成果動向を「順調」「横ばい」「順調でない」のいずれかで評価